

生命力のある 企業情報システムとは

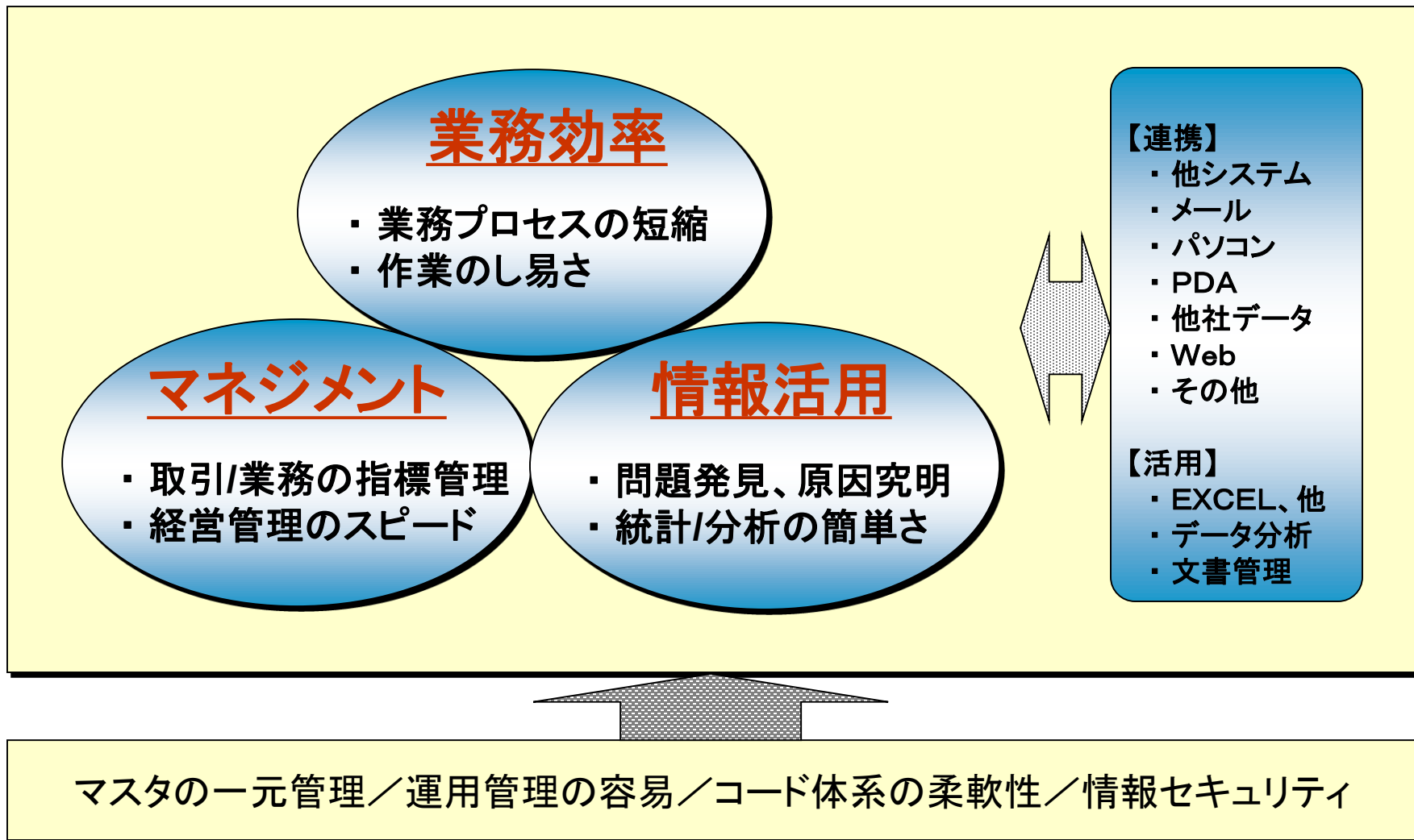
— 事業活動を支える道具の良さ —

1. これからの企業情報システム
2. 業務改善の原則
3. 業務効率への対応
4. マネジメント支援のあり方
5. 情報活用の対象
6. 良い情報システムの基本機能
7. 生命力ある情報システム創り

(ご参考) 問題のある情報システム

1. これからの企業情報システム

- これからの企業情報システムは業務効率の向上とともに、「マネジメントの支援・情報活用」のあり方を自社にあった形にすることが必要不可欠です。単なる業務処理の改善でのパッケージ導入(情報システムの再構築)の時代は終わりつつあります。投資の無駄になり易いです。



2. 業務改善の原則

- 業務改善はマネジメントの改善・情報活用を含めて、「何のために・どのように」を明らかにして行う必要があります。

業務処理の改善

- **自動化の原則** 人が必要以上に努力・作業しなくても、「ある結果にならざるをえない」仕組み／システム
- **分業の原則** 仕事を作業別に分類し、内部牽制を考慮しての作業の効率的な仕組み／システム
- **標準化の原則** 作業のやり方について、ムダ・ムリ・ムラのない方法を検討し、効率的で確かな作業が誰でもができる仕組み／システム

マネジメントの改善

- **迅速性の原則** 業務処理・取引情報に関連する情報を必要な人に分かり易くし、タイミング良く提供
- **問題発見の原則** 管理基準の向上/評価が容易にできる。また、問題発見に関する情報の提示

管理・評価・改善

情報活用

具体例

(自動化)

- ・受注～引当～出荷～売上
- ・部品表～発注～部品入庫

(分業)

- ・商品発注～発注承認
- ・入金消込み～入金承認
- ・入荷処理～仕入処理

(標準化)

- ・出荷指示～ピッキング
- ・受注～貿易書類作成
- ・発注～集中購買～承認

(迅速性)

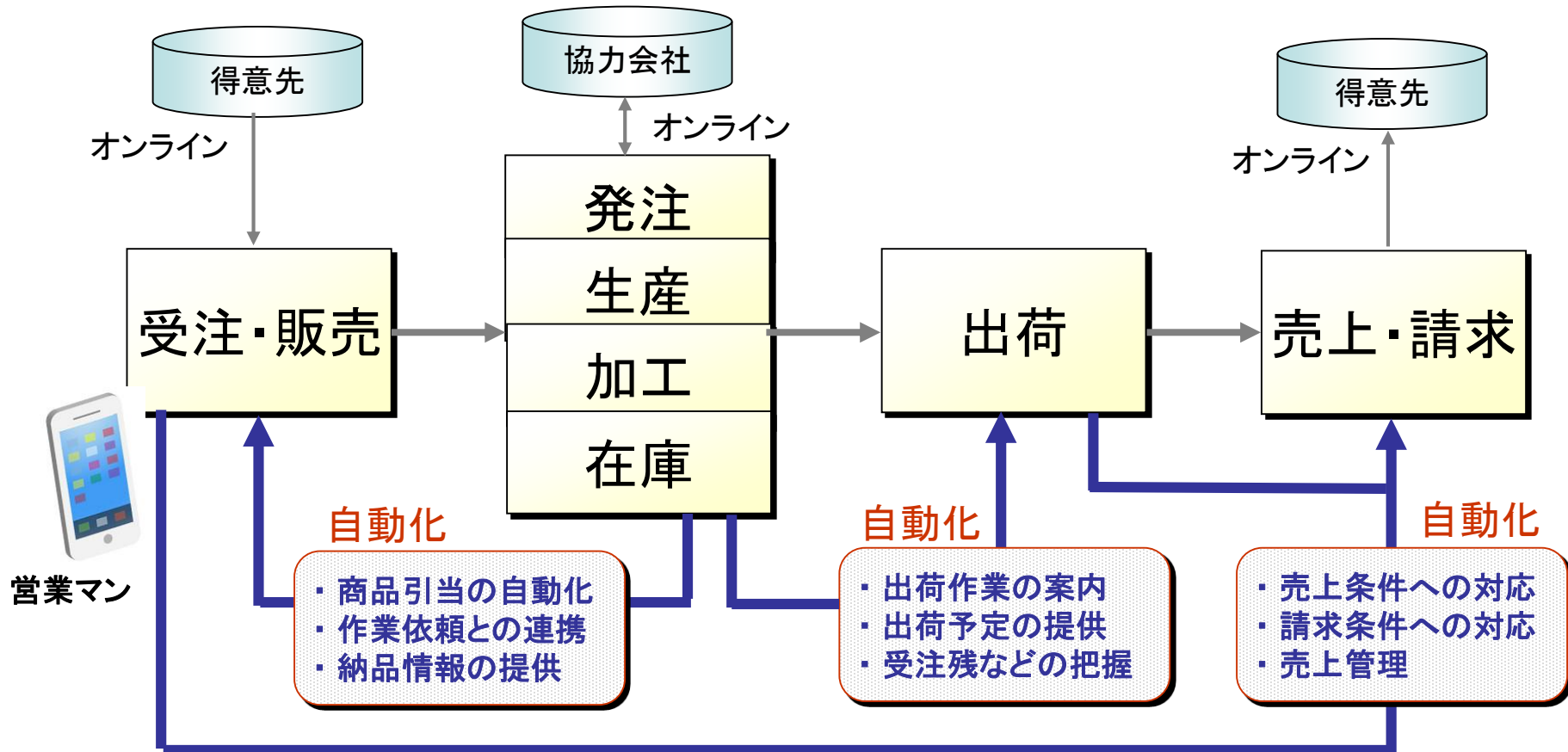
- ・在庫情報、受発注情報
- ・クレーム、経営・収益情報

(問題発見)

- ・与信管理、回収遅れ
- ・欠品情報、納期遅れ
- ・品質不良、粗利益減
- ・原価割れ、生産遅れ

3. 業務効率への対応

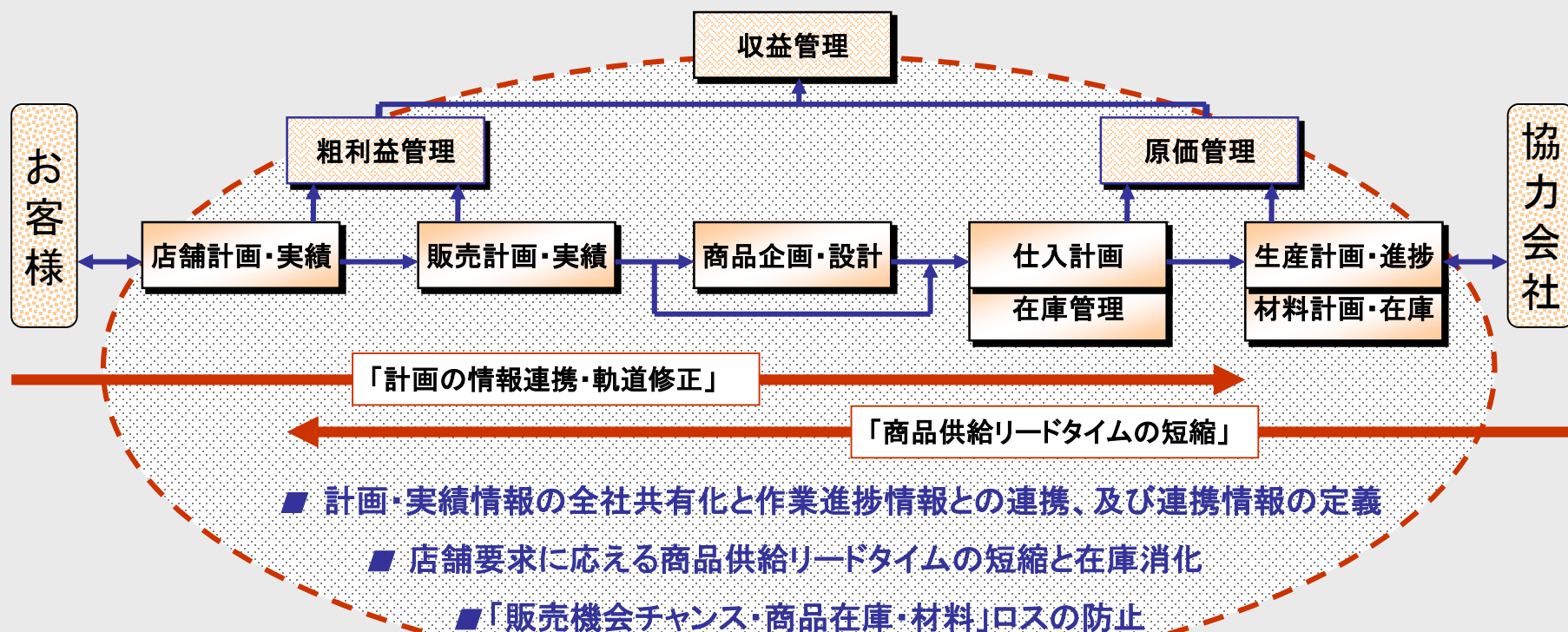
- 業務効率／顧客サービス向上／営業マンへの情報支援の目的のために、業務プロセスの短縮と連携が情報システム利用のあり方になっています。
- 「受注・販売」に業務処理が集中され、「発注・・・、出荷、売上・請求」の業務処理が短縮・軽減されるのが業務効率のポイントです。（卸業・商社・製造業）



4. マネジメント支援のあり方

- マネジメントは「計画」ありきであり、その計画達成のための仕組みと人の判断・指示で構成されています。
- 経営者・マネージャをタイミング良く支援することが情報システムに求められています。経営情報／取引情報／業務情報の密な連携です。

「鳥の目」と「虫の目」による情報精査と行動＝マネジメント



5. 情報活用の対象

- 情報統計・分析に加えて、現在進行中の「営業活動・業務処理」に対する異常・傾向・注意などのリアルキャッチが大事な情報活用と言えます。



① 「営業活動の支援」「業務処理改善の支援」を行う。

(例) 売上キャンセル・変更、仕入キャンセル・変更、価格変更、値引、逆ザヤ
内部取引、予算オーバー、売掛金滞納

② 管理者、経営者に必要な「マネジメント情報の提供」を行う。

(例) 予算管理、計画管理(未達成、達成率基準)、仕入管理、売上管理
営業所別指標の管理、付加価値、顧客サービスの基準管理

6. 良い情報システムの基本機能

● 生命力のある情報システムはこれからの経営環境を考慮し、事業を支える基本機能を備えることです。

● 経営管理からの必要機能

- ・ 経営情報の分析、活用
(カテゴライズ、セグメント…)
- ・ 会計情報との密な連携

● 取引環境への適用機能

- ・ 取引条件の変更対応
(商流、物流、生産流、情報流)
- ・ 営業活動への支援

● 業務処理の効率機能

- ・ 入力データの連携活用
- ・ 内部統制と警告情報の抽出
(与信管理、納期管理…)

● 作業負担の軽減機能

- ・ 変更データの分かり易さ
(処理変更、オペミス…)
- ・ 帳票主体の作業からの脱却

■ 保有すべきシステム機能

- ・ 商品/取引先マスタの拡張性
- ・ コード体系/カテゴライズの柔軟性
- ・ 複数の処理方式(発注・受注・出荷・生産)



・ 目先の課題解決とともに、自社としての譲れない保有すべき機能とシステム機能を明らかにすることです。パッケージ選択(システム構築)の前提条件と考えます。

7. 生命力のある情報システム創り

● 生命力のある情報システム(パッケージ導入含む)創りは、複数の成功要因を理解し具体化することです。

① 目的・投資効果の明確化

- ・ 情報システム創りの目的の具体化
- ・ 定量効果、定性効果の整理と経営者の承認

② 基本手順の確認と決定

- ・ 課題整理と課題解決策の具体化と実行
- ・ パッケージ導入(システム構築)の位置付け

* パッケージ選定ありきか否かで「基本手順」のあり方は変わります。

③ 情報システムは道具

- ・ 情報システム／通信は目的達成の手段
- ・ 業務ルール、業務の仕組みが優先

* 「業務ルール・業務の仕組み」はシステム機能の検討の中でも可能です。

④ ベンダー選定の重視

- ・ オリジナリティを持ち、具体性ある提案
- ・ 会社の安定性、担当PM・SEの力量と実績



・ 「1. これからの企業情報システム」とともに、上記事項を自社に合った内容でよく詰めることです。これらのことが情報システム創りのスタートラインと認識することが大事です。

(ご参考) 問題のある情報システム

● 問題のある情報システムはさまざまな症状が日常的にでます。システムの根幹に原因があるものもあります。

- ・ 新商品の発売、取引条件の変更に対応しづらい
- ・ 情報の活用(集計・分析)に手間がかかりすぎる
- ・ 必要情報がすぐ手に入らないので、業務・営業が滞る

■ 想定される原因 → システムが古くなっている

- ・ 変更、訂正での業務処理が信頼性を欠いている
- ・ 照会、帳票作成、伝票発行でのレスポンスが遅い
- ・ 集計、合計などで「数字」が合わないケースがある
- ・ 2重入力(PC処理含む)をしているデータがある。

■ 想定される原因 → システム欠陥を持っている



- ・ 上記事柄で、**2点以上が該当する**情報システムは、日常処理なりマネジメントにおいて支障をきたしていると考えられます。情報システムの点検・再検討をすすめます。